

ビッグデータの活用による都市型観光拠点の課題探究 —不動産学の視点中心とする議論の場の提供—

今西 衛（日本文理大学）

【登壇者】

- 熊本市商工会議所 商工観光振興課
課長 小野照代
- NTT 熊本支店
- 一般社団法人マチノミライ
代表理事 松永哲典
- Oxyzen 株式会社
代表取締役 CEO 兼 CTO 森谷武浩
- 熊本市 データ戦略課
課長 吉本 忠史（コメンテーター）
- 熊本市 観光政策課
課長 坂田 文昭（コメンテーター）
- 日本文理大学
教授 今西 衛（コーディネーター）

（順不同・敬称略）

【後援】熊本市、熊本商工会議所、公益社団法人九州経済調査協会（順不同）

【趣旨】

新型コロナウイルス感染症対策が5類に移行し、人の流れが活発化している。近年注目を集めているスマートフォンの位置情報を用いた人流に関するビッグデータの利活用が活発化している。また、政府が主導となって、DX（デジタル・トランスフォーメーション）化がすすめられている。さらに、インバウンドをはじめとする観光政策によって日本の生活や文化などの都市型観光は今後も成長する兆しがある。

しかしながら、現状ではビッグデータをどのように活用したら、観光や産業が活性化するかなど、実務者レベルでは手探りなのが現状なのではないか。

そこで、本ワークショップでは、熊本をはじめとする都市型観光拠点において、ビッグデータの活用事例や課題などを実際に企画や政策を行っている実務者同士が議論することで、ビッグデータのより効率的な利活用について提案をすることを目的とする。

以上、産学官から話題を提供し、議論することで、観光や不動産学における今後のビッ

グデータの利活用の促進の方向性を示したい。

【ワークショップの流れ】

- 1) 趣旨説明
- 2) 登壇者からの説明
 - ・ ビッグデータ事業者によるビッグデータの活用事例の紹介
 - ・ 近年のビッグデータの研究
- 3) 問題意識や課題を踏まえた議論
- 4) フロアからの質疑応答
- 5) まとめ

以上